

「荻外荘 (近衛文麿旧宅)」 ～新指定の国史跡～

荻外荘は、昭和戦前期に首相を三度務めた政治家、近衛文麿(1894～1945)が住んだ荻窪の別邸です。平成28年(2016)3月1日に、日本政治上重要な場所として、国の史跡に指定されました。



との交渉に行き詰まり、内閣は総辞職します。戦後、GHQから戦犯容疑で逮捕命令が出された近衛は、巣鴨拘留所出頭当日の昭和20年(1945)12月16日の未明に、荻外荘で服毒自殺しました。



創建と命名

荻外荘が建てられたのは、昭和2年(1927)頃で、当初は入澤達吉という人物の別邸でした。入澤は、大正天皇の侍医も務めた医師です。邸宅の設計は、後に築地本願寺を設計した建築家の伊東忠太が行いました。

近衛文麿が、この邸宅を入澤から譲り受けたのは、昭和12年(1937)12月のことです。政治家であった近衛は、この年に初めて首相となり、第一次近衛内閣を率っていました。しかし、永田町にあった邸宅への訪問客の多さや、自分の健康への不安などを理由に、入澤の邸宅を購入して移り住むこととしました。「荻外荘」という名は、近衛の後見人でもあった元老の西園寺公望が、近衛の入居後に名付けたといわれます。

荻外荘と近衛文麿

近衛が暮らす荻外荘は、政治に関する重要な話合いが行われた場所ともなりました。特に有名なのは、近衛が二度目の内閣を組織する直前の昭和15年(1940)7月19日に開かれた「荻窪会談」です。この会談は、第二次近衛内閣で、外務大臣・陸軍大臣・海軍大臣に就任する予定であった松岡洋右・東條英機・吉田善吾を荻外荘に呼び、ドイツ・イタリアとの更なる連携や、東南アジア地域への進出など、第二次近衛内閣の政治の基本方針を話し合ったといわれています。ドイツやイタリアと連携する方針は、9月27日の日独伊三国同盟の締結につながりました。

また、日本とアメリカの戦争が始まる直前の昭和16年(1941)10月12日にも「荻外荘会談」と呼ばれる会談が行われています。このとき、第三次近衛内閣を率いる近衛は、戦争を避けるためにアメリカとの交渉を行っていました。アメリカは、日本の軍隊を中国から撤退させることを交渉の条件としていたため、近衛は会談で陸軍大臣の東條に了解を求めますが、東條はそれを拒否したことからアメリカ

現状と今後

近衛が「荻窪会談」を行った客間など、建物の一部は、昭和35年(1960)に豊島区へ移築されましたが、自決の場となった部屋は、荻窪の荻外荘で当時の様子を伝えています。平成26年(2014)に杉並区の所有となった荻外荘は、今後、国の史跡としてふさわしい復原整備が行われます。現在、建物部分は非公開ですが、庭園であった南側部分は、日中に一般開放しています。



荻外荘 (近衛文麿旧宅)

所在地：東京都杉並区荻窪2丁目43番
交通：JR・東京メトロ「荻窪」駅下車徒歩15分
南側敷地開放時間：午前9時～午後5時
(12月29日～1月1日は閉園)
問合せ：杉並区教育委員会
生涯学習推進課文化財係
Tel.03-3312-2111
内線1666・1667
※現在、建物部分は非公開



今回は、7月に「ル・コルビュジエの建築作品—近代建築運動への顕著な貢献—」として世界遺産に登録された国立西洋美術館について特集しました。この国立西洋美術館も参加している「東京文化財ウィーク2016」も10月から始まります。併せて、「千駄木谷中界隈を歩いてみませんか」「中世の多摩を歩いてみませんか」という文化財めぐりの冊子も配布します。是非、「文化財ウィーク2016」のガイドブックや文化財めぐり冊子をお手に取っていただき、文化財めぐりをお楽しみください。



東京の文化財

© FLC/ADAGP/ADNDH/De Prins/Emden/Kieslowsky/OMG, 2016

目次

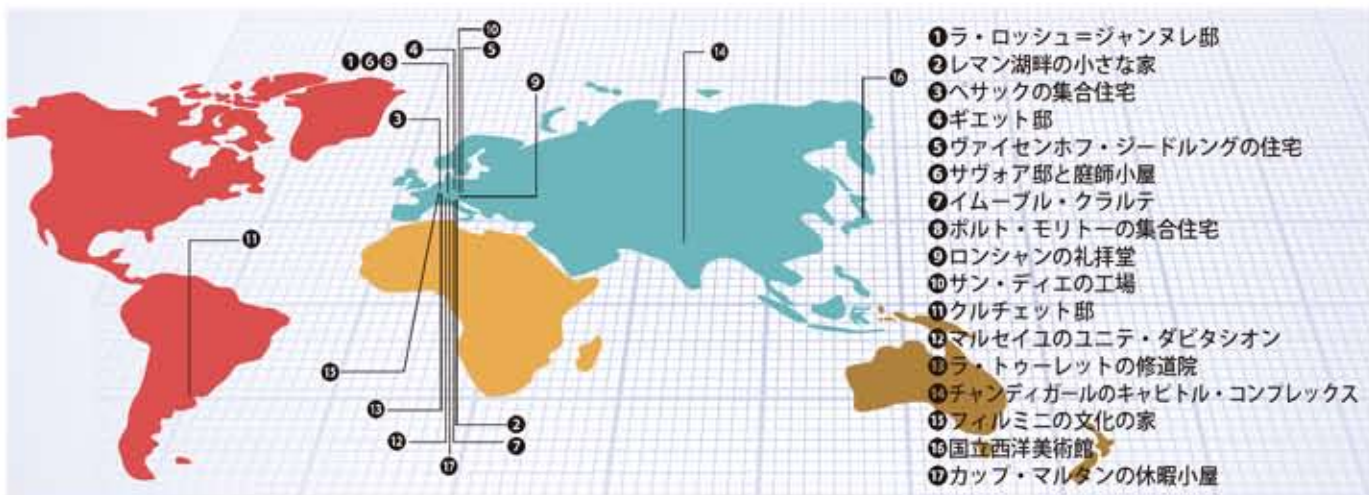
国立西洋美術館、世界遺産に登録！！	1~3
東京文化財ウィーク2016が始まります！	4~5
文化財を生かす(墨田区・調布市)	6~7
「荻外荘(近衛文麿旧宅)」～新指定の国史跡～	8



国立西洋美術館、世界遺産に登録！！

このたび、7月にイスタンブールで開催された世界遺産委員会でフランス、スイス、ドイツ、ベルギー、アルゼンチン、インドそして日本の共同で推薦していた「ル・コルビュジエの建築作品—近代建築運動への顕著な貢献—」が世界文化遺産に登録されました。

上野恩賜公園にある国立西洋美術館を含む、三つの大陸をまたいで7か国17資産で共同で推薦することになった発端と都教育委員会が取り組んできた経緯、そして登録資産の内容について紹介しましょう。



- ① ラ・ロッシュ＝ジャンヌレ邸
- ② レマン湖畔の小さな家
- ③ ヘサックの集合住宅
- ④ ギエット邸
- ⑤ ヴァイセンホフ・ジードルングの住宅
- ⑥ サヴォア邸と庭師小屋
- ⑦ イムブル・クラルテ
- ⑧ ボルト・モリトーの集合住宅
- ⑨ ロンジャンの礼拝堂
- ⑩ サン・ディエの工場
- ⑪ クルチエット邸
- ⑫ マルセイユのユニテ・ダビタシオン
- ⑬ ラ・トゥーレットの修道院
- ⑭ チャンディガールのキャピトル・コンプレックス
- ⑮ フィルミニの文化の家
- ⑯ 国立西洋美術館
- ⑰ カップ・マルタン・の休暇小屋

【発端と経緯】

今回の「ル・コルビュジェ建築作品」の世界遺産共同推薦については、平成19年にフランス政府から日本政府に要請があったものです。



ル・コルビュジェ
© FLC/ADAGP2016

その後、我が国唯一のル・コルビュジェ作品である、国立西洋美術館の世界遺産申請について、国からの要請を受け、都としても都教育委員委が窓口となって庁内関係局と調整し、地元の台東区と協力しながら、推薦に取り組んできました。

ル・コルビュジェは、パリを拠点に活躍

した建築家、都市計画家で、合理的かつ機能的で明晰なデザイン原理を、絵画、建築、都市等において追及し、20世紀の建築、都市計画に世界中に大きな影響を与えました。

今回のような複数の資産を共同で推薦することを「シリアル・ノミネーション」といいますが、「大陸を越えたシリアル・ノミネーション」での世界遺産登録は世界初のものでした。

今回は、3度目の挑戦でした。

1回目が平成21年で、ICOMOS勧告が「記載延期」、世界遺産委員会では「情報照会」、2回目は平成23年でICOMOS勧告が「不記載」、世界遺産委員会が「記載延期」というものでした。

7か国17資産で、言葉、国の仕組み、文化の違いを越えて、一つの共通した理解、合意を取り付けながらの推薦書の取りまとめは、前例のない困難な道のりでした。

【世界遺産登録資産の内容】

1. 「近代建築運動」の意義

「近代建築運動」は、今回の世界文化遺産の名称にもあり、今回の世界遺産登録の意義を知るには重要なポイントです。

ル・コルビュジェを中心として進められた「近代建築運動」は、19世紀以前の様式建築を批判し、市民革命と産業革命以降の、社会のニーズに合った建築を造ろうとする潮流、ムーブメントでした。

その背景には、技術面から見れば、石に代わって鉄・コンクリートといった新しい素材を使った建築技術の発達があり、建築部材の大量生産による建築の効率化があります。

社会面から見れば、当時、第2次世界大戦後の復興と大都市への人口集中、そして経済発展と情報の一極集中などの社会問題が顕在化していました。

そうした背景の中で、ル・コルビュジェは、「近代建築運動」を起こし、人々に豊かな住空間を確保するというニーズを満たしながら、大都市の高密度化、効率化という、相反する難題の一つの答えを与えました。

その最大の功績を指し示す建築は、「マルセイユのユニテダビタシオン」です。

現在となつては、何の変哲もない約1,600人が暮らす集合住宅、いわゆるマンションですが、戦後間もない昭和27年(1952)に竣工したこの建物は、当時、戦争難民を数多く抱えたマルセイユ市に依頼され、ル・コルビュジェが設計したものです。

内部にある337の住戸全てが一日に必ず陽の当たる時間を持つように配置されるなど、住民に機能的で快適な住環境を提供しています。また、建物内部には、今でいうショッピングセンター、屋上には幼稚園を備えており、建物自体が町を形成しています。

一方で、マンションという巨大建築物が出現したこと、周辺地域が分断されないように、1階にピロティと呼ばれる吹き抜けを設けて、建物下の往來を確保し、かつ多様な用途に利用できる広場としました。

この建築アイデアは、人口集中に悩む全世界に、瞬く間に広がりました。

日本にも数多くの団地が出現し、東京など都市部では今もショッピングセンターなどの複合施設が入った、マンションが数多く建設されています。

2. 「無限成長美術館」とは

今回の世界遺産登録に当たり、国立西洋美術館の評価に大きく関わったのが「無限成長美術館」という考え方です。

国立西洋美術館の基本理念となった「無限成長美術館」は、ル・コルビュジェの大都市の捉え方に対する一つの答えでありました。



ユニテ・ダビタシオン (マルセイユ) photo:Paul Kozlowski© FLC/ADAGP2016

ル・コルビュジェは、大都市を「人、そして知識と情報が集まる場所」として捉え、美術館、博物館は、正に知識、情報を整理、検索し、アウトプットする場所であると考えました。

それまでの、時の権力者たちによって収集されたコレクションを見せる美術館から脱却し、近代の美術館に収集されるべきものは人々が自ら集めて、そして、人々が必要とする分だけ大きくすることができる「無限成長美術館」を発想しました。

人々が都市に集まり、知識と情報がル・コルビュジェの「無限成長美術館」を核に文教ゾーンを形成し、街、都市、そして世界に広がっていくというアイデアでした。

国立西洋美術館の建物について見ると、その「無限成長美術館」は、竣工した時点で成長の端緒となる建物であらねなりません。

西洋美術館の動線は、1階のピロティを通り、最初に建物中央の19世紀ホールと呼ばれる吹き抜けの部屋に入ります。

スロープを登って2階に入ると19世紀ホールの周辺を巡ることになります。

そして、H型に配された中二階が壁に突き当たる場所で、増床されるはずの次の建物への入口となる窓が予め用意され、渦を巻くように増築できるコンセプトで設計されました。

また、ル・コルビュジェは、建物の寸法全てを彼が考案したモデュロールと呼ばれる、人間工学から導き出した寸法を用いて設計しました。いわゆる規格化がなされているので、増築の際には、その寸法を用いて、工場部材を大量生産し、現場で素早く組み立てることが出来ます。

さらに、ル・コルビュジェのデザインの特徴であり、彼が提唱した「近代建築の5要素」が国立西洋美術館には全て盛り込まれています。

- ① 地上階の吹き抜けであるピロティ
- ② 屋上庭園
- ③ 自由平面
- ④ 水平連続窓
- ⑤ 自由な正面

鉄骨鉄筋コンクリートを使えば、建物を壁でなく、柱で支えることになり、空間を仕切る壁や窓、そして建物外壁を自由にデザインすることができます。

【日本に与えた影響】

国立西洋美術館は、これら全ての要素を取り込んだ「完成された設計」と言われています。

国立西洋美術館は、こうした「無限成長美術館」という新たな美術館建物のプロトタイプであること、全体がモデュロールで設計されていること、さらに、近代建築運動の神髄である「人間の社会的及び人間的ニーズに応える」建物として実現したものであることなどが、評価されたものです。

ル・コルビュジェ作品が日本に与えた影響は大きく、弟子であった前川國男、坂倉準三、吉阪隆正だけでなく、その後の丹下健三、安藤忠雄、隈研吾なども、世界中に広がるル・コルビュジェ作品の影響を受けたと自ら語っています。

ル・コルビュジェは近代建築運動を通じて、現代の日本だけでなく、世界の都市の発展に寄与し、その象徴的な建物として国立西洋美術館があるのです。



写真提供：国立西洋美術館

1 ピロティ



2 屋上庭園



3 自由な平面



4 横長の大きな窓 (水平連続窓)



5 自由なファサード (正面)



〈ル・コルビュジェの提唱した「近代建築の5原則」〉



東京文化会館 (前川國男の代表作)

問合せ先
東京都教育庁地域教育支援部管理課文化財保護担当
電話 03-5320-6862

東京文化財ウィーク2016が始まります！

東京文化財ウィークとは？

東京文化財ウィークでは、都内各地にある文化財の一斉公開や文化財に関連した企画事業を国の「文化財保護強調週間」に合わせて集中的に行っています。公開している文化財や企画事業の一覧は、9月中旬に配布予定の文化財ウィークのガイドブックやホームページに掲載しています。

また、特集冊子として、「千駄木谷中界隈を歩いてみませんか」「中世の多摩を歩いてみませんか」も同時に配布をする予定です。

現地では写真付ポストカードの形をした文化財に関する解説カードも無料で配布しています。解説カードは現地等でしか手に入れることができませんので、文化財を訪れた際に集めてみてください。

東京文化財ウィークガイドブックについて

東京文化財ウィークに参加する公開文化財、企画事業の情報が掲載されたガイドブック(冊子)を発行します。ガイドブックは2種類ありますので、お取り忘れないようお気を付けてください。

【通年公開編】

通年公開編では、一年を通じて公開している文化財を紹介しています。

また、巻頭特集として、今年7月にイスタンブールで開催された世界遺産委員会で世界遺産に登録された「ル・コルビュジエの建築作品—近代建築運動への顕著な貢献—」を掲載しています。

※年間を通じて使用できます。

※年間の公開情報については平成28年8月現在の情報です。最新の情報については改めて御確認の上、お出掛けください。



【特別公開・企画事業編】

特別公開編では、文化財ウィーク期間に限って公開する文化財を紹介しています。企画事業編では、10月11日に各区市町村教育委員会をはじめとした団体による文化財に係るイベント等を掲載しています。

また、東京9区による文化財古民家めぐり事業など、連携事業も掲載しています。

※特別公開は平成28年10月29日(土)～11月6日(日)、企画事業は平成28年10月1日(土)～11月30日(水)限定です。



ガイドブックはどこで手に入りますか？

ガイドブックは、都庁内の観光案内所や、区市町村教育委員会の文化財担当の窓口、区市町村立郷土博物館、ガイドステーションを中心に都内各地で無料で配布しています。在庫がない場合もございますので、お問い合わせの上、配布窓口までお出掛けください。



ガイドステーション

区市町村立の郷土博物館を中心にガイドステーションが設置され、ガイドブックの配布や企画事業などの情報提供を行いますので、是非御利用ください(ガイドステーションの一覧はガイドブックや東京都教育委員会ホームページに掲載予定です)。

ガイドステーションの例

北区立中央図書館「北区の部屋」	日野市立中央図書館
三鷹図書館(本館)	ハルテノン多摩歴史ミュージアム
東村山駅西口サンバルネ	東京都立埋蔵文化財調査センター
産業・観光案内コーナー	二宮考古館
町田市立中央図書館	など、多数

特集冊子

文化財ウィークにあわせて、昨年度に引き続き区部と多摩部で文化財めぐりの特集冊子を作成しました。こちらは、文化財ウィーク期間に限らず、一年を通じて文化財めぐりを楽しめるコースとなっています。

また、英語版も作成しています。バックナンバーも引き続き配布していますので、都内各地の文化財めぐりをお楽しみください。

～千駄木谷中界隈を歩いてみませんか～

閑静な住宅街からどこか懐かしさを感じる街の賑わいまで、様々な顔を持つ本駒込から根岸の地域。江戸時代には、中山道を通じて江戸市中への入り口でもありました。明治に入ると、東京大学や東京美術学校にも近いこの地域は、森鷗外や夏目漱石を始めとした文豪や、岡倉天心や朝倉文夫などの芸術家も集う街となりました。

今回は、江戸時代の大名屋敷や寺院の雰囲気を感じる文化財のほか、明治の文化人の暮らしを垣間見ることのできる文化財めぐりコースを御紹介します。



～中世の多摩を歩いてみませんか～

JR青梅線に揺られていくと、みどり豊かな地域が目の前に広がっていきます。この辺りは、鎌倉時代から戦国時代まで三田氏という地方豪族が支配しており、周辺の寺社や城館に数々の足跡を残しました。

また、三田氏が平将門の後裔と称していたこともあってか、平将門にまつわる伝承も残されています。

今回は、青梅・羽村・昭島にある中世を感じられる文化財を中心に、文化財めぐりコースを設定しました。文化財を彩るみどりとともに、歴史豊かな多摩地域の新しい魅力を発見してみてください。



★バックナンバー★



※特集冊子は日英2か国語対応です。
※バックナンバーは都庁内観光案内所、各地域の区市町村教育委員会や観光案内所、東京シティアイ(東京駅直結JPタワーKITTE)等で配布しています。在庫がない場合もございますので、お問い合わせの上、お出掛けください。

特別企画

【ガイドボランティアによる特別ガイド@旧前田家本邸】

旧前田家の建物としての魅力と加賀百万石で知られる前田侯爵家の歴史をボランティアガイドが解説をして案内するツアーを行います。



和館南面

【パネル展】

江戸時代から前田家がつないできた東京と金沢の時間的・地理的つながりを考えるパネル展を旧前田家本邸和館で開催します。

【視覚・聴覚障害者社会教養講座】

今年も視覚・聴覚障害者社会教養講座を開催します。

- ・視覚障害者社会教養講座
旧細川侯爵邸の見学と伝統工芸の根付体験
- ・聴覚障害者社会教養講座
史跡見学！湯島聖堂(国指定史跡)探訪

詳細はガイドブックの特別公開・企画事業編28～29ページを御覧ください。

見学に当たってのお願い！

文化財は、私たちの大切な宝物であり、そして後世に受け継いでいくべき財産です。文化財を見学するときはマナーを守って御鑑賞ください。ガイドブックには各文化財の施設情報が載っています。撮影禁止の場所もありますので、ガイドブックや現地の指示に従ってください。



お問合せ先
東京都教育庁地域教育支援部管理課
文化財保護担当
電話 03-5320-6862



葛飾北斎ゆかりの地の文化財

文化財を生かす(墨田区)



「すみだ」ゆかりの人物「葛飾北斎」

今や世界的に有名となった葛飾北斎は、現在の墨田区亀沢の辺りで生まれたと言われています。現代のような住居表示のない江戸時代のことですから、出生地はあくまで本所南割下水界隈とのみ伝わるに過ぎませんが、地元では大体この辺りであると昔から推測されているそうです。

北斎の出生地を亀沢付近としてきたのには、多分、住民の強い意識が影響していると考えられます。

また、既に周知の範囲ですが、本所出身の北斎は数え90歳で亡くなるまで転居を繰り返し、およそ定住生活とは縁のない人であったとされます。転居した回数に定説があるわけではありませんが、飯島虚心の「葛飾北斎伝」によれば100回近いという説があるようです。ほぼ毎年居を移していた計算になるわけですが、それでもなお本所の辺りに住むことが多かったというのですから、北斎は正に「すみだゆかりの人物」です。

地元ではいわゆる「榎馬場」があった榎稲荷神社(両国四丁目)付近も代表的な伝承地となっており、同社境内へ立ち入ってみれば、そこには年老いた北斎が近くに住んだことを示す史跡説明板も建てられています。

ピーター・モース氏旧蔵北斎関係美術資料群

墨田区は、「ピーター・モースコレクション」という副称でも知られる北斎作品の著名なコレクションを所蔵しています。その名の通り、元は世界的に有名な浮世絵コレクター、ピーター・モース氏(1935-93)の所蔵品であったものです。

モース氏は、葛飾北斎の作品を早くから世界に紹介したことで知られるエドワード・シルヴェスター・モース(明治10年に東京大学に招かれた動物学者で、大森貝塚の発見者としても有名)の血縁者で、若い頃から浮世絵に関心を示し、後に北斎作品の一大コレクションを形づくりしました。残念ながら平成5年(1993)都内滞在中に急逝され、御遺族の御協力を得て墨田区がコレクションを譲り受けました。

そのコレクションの大部分が平成16年1月に「ピーター・モース氏旧蔵北斎関係美術資料群」の名称で墨田区の登録文化財に登録され(「北斎版画」「北斎摺物」「北斎版本」「門人作品」の4種に分類しています。)、厳選された秀作6件17点が、同年7月に墨田区指定文化財に指定されました。

問合せ先
墨田区教育委員会事務局生涯学習課文化財担当
電話 03-5608-6310

ぜひ観たい北斎の名作

特に指定文化財となったものの中には、北斎の風景版画の代表作「富嶽三十六景」全46枚の内1枚、「富嶽三十六景 武州玉川」(上左写真)や、永寿堂から出版された横大判花鳥画(全10枚)のうち特に白眉とされる「牡丹に胡蝶」(上右写真)などが含まれます。

また、向島所在の法泉寺の境内に祀られた「金勢大明神」への参詣を描いた「寺島法泉寺詣」や早期の風景作品と言われる摺物、「伊勢屋利兵衛板 新板浮絵江戸名所」12点のほか、寛政10年(1798)正月の刊記を有する狂歌絵本の挿絵「さむたらかすみ」(下写真)など依屋宗理を名乗った時代の北斎の代表作も揃います。



墨田区指定文化財「さむたらかすみ」

「すみだ北斎美術館」の開館

コレクションに含まれる北斎の貴重な作品群は、これまでなかなか公開することができませんでした。そこで墨田区では世界的にも著名な葛飾北斎を区民の誇りとして永く顕彰し、新たな文化創造の拠点ともなる「すみだ北斎美術館」(墨田区亀沢二丁目7番2号)を平成28年11月22日に開館することとしています。

建物は4月28日に竣工しており、現在区では開館に向けて準備を進めています。美術館開館後は、北斎の秀作群を実際に観覧していただく機会が増えると思います。一度ならず足を運んでいただき、歴史ある北斎ゆかりの地「すみだ」の文化に親んでいただきたいと思います。

国登録有形文化財 「白百合女子大学めぐみ荘(旧菊池家住宅主屋)」

文化財を生かす(調布市)



めぐみ荘の歴史

白百合女子大学の敷地内にある「めぐみ荘(旧菊池家住宅主屋)」は、昭和5年(1930)、伊豆修善寺で名主や代官を務めた菊池家の主屋を津村順天堂(現株式会社ツムラ)の創業者である津村重舎が譲り受け、北多摩郡神代村仙川(現調布市緑ヶ丘)に経営していた津村薬用植物園に移築したものです。移築に際しては、極力原形を保つため、解体した全ての部材をトラック40数台で運び込んだといえます。薬用植物園では、宮家視察の際の休憩所として使用されたほか、政財界の名士を招いた茶会の場などに利用されました。

戦後、農地解放等により津村順天堂が薬用植物園を手放すと、旧菊池家住宅は、帝国石油(現国際石油開発帝石株式会社)の保養所を経て、昭和40年に白百合女子大学の所有となり、「めぐみ荘」と名付けられました。当初はキャンパス中央付近にありましたが、校舎建築に伴い曳家され、現在地に移されました。



めぐみ荘(昭和40年頃)

写真提供: 白百合女子大学

建物の特徴

「めぐみ荘」は木造平屋で、屋根は入母屋造の瓦葺きです。土間の上の大棟には通風や採光のための越屋根を載せています。屋根は瓦葺きにしては急勾配ですが、これは当初茅葺きであったのが、後に瓦葺きに葺き替えたためと伝えられています。

正面向かって左手を土間とし、太い大黒柱を挟んで右手に六間取りの床上部が配されます。一番奥の上座敷には床の間を備え、座敷周りには縁を巡らします。現在、正面はガラス張りの縁側になっていますが、玄関にあたる中間に

は式台の痕跡が残されており、当時の格式が偲ばれます。

詳しい建築年代は明らかではありませんが、明治前期以前の建築と考えられます。原所在地の伊豆地域でも希少な大型民家であることなどが評価され、平成26年4月25日、国登録有形文化財(建造物)に登録されました。

めぐみ荘の活用

現在、「めぐみ荘」は大学施設として、茶道部や華道部などのクラブ活動の場として日常的に使用されるほか、学会や卒業生のクラス会などに利用されています。国登録有形文化財に登録されたことで、改めて建物の文化財的価値が見直され、地元だけにとどまらず広く関心を集めることとなりました。そこで、女子大学敷地内という立地的制約がありますが、「東京文化財ウィーク」に合わせて見学会を行うなど、折を見て特別公開の場を設けています。また、「めぐみ荘」に関する講演会を行ったり、座敷を利用して寄席を開いたり、地域の文化財として親しみでもらえるような事業を行っています。



茶道部活動風景

写真提供: 白百合女子大学

「白百合女子大学めぐみ荘(旧菊池家住宅主屋)」

所在地: 調布市緑ヶ丘1-25

白百合女子大学キャンパス内

アクセス: 京王線「仙川」駅下車徒歩10分

お問合せ: 調布市郷土博物館(電話: 042-481-7656)